

英国代表チーム 川崎キャンプ推進協議会の活動

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、市内企業・団体等の協力により、一丸となって英国オリンピック・パラリンピック代表チームを応援し、選手・スタッフへのおもてなし等を通じて、相互理解や交流を深めること及び地域の活性化を図るため、2019(令和元)年10月28日に「英国代表チーム川崎キャンプ推進協議会(協議会)」が設立され、次のとおり活動を行った(2021(令和3)年10月末日に解散)。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、当初予定していた選手・スタッフのエクスカージョン(市内観光)やウェルカム・フェアウェルレセプションについては、残念ながら実施ができなかった。

広報・シティドレッシング

市内全駅(一部を除く)の構内に「GOGB 2020」ポスター(B1サイズ)を掲出した(1駅につき1枚、2021年7月6日から9月5日まで)。ポスター制作費を協議会で負担し、広告費は市が負担。また、市制作のチラシ、ポスター、のぼり旗等を会員の施設等で掲出した。

キャンプ運営サポート

事前キャンプ期間中に選手・スタッフに対して飲料水(生田の天然水「恵水(めぐみ)」)の提供を行った。

おもてなし

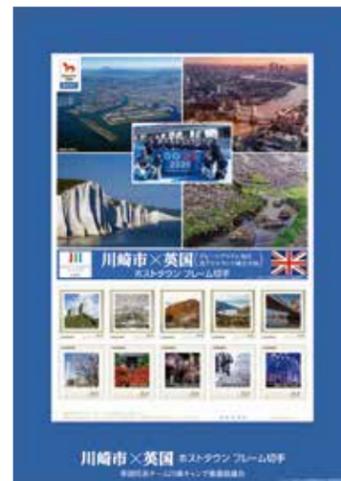
会員によるおもてなし等のアイデアにより、事前キャンプ施設である等々力陸上競技場のメインスタンド内のホールに、夏に咲く桜の生け花、水引を使ったアート作品の展示を行



駅貼りポスター (B1サイズ)



水引作品展示前水引ストラップを手にする英国オリンピック選手団長のイングランド氏



川崎市×英国ホストタウンフレーム切手の台紙(上)と切手シート(下)



水引を使ったアート作品

い、振袖と四季の花々の帯結びの展示と実際に羽織ってもらえる着物を用意して、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、非接触によるおもてなしではあるが、選手・スタッ

フに日本文化を楽しんでいただける場を提供した。また、選手・スタッフに水引ストラップ、ホストタウンフレーム切手をプレゼントした。



夏に咲く桜の生け花展示



振袖と四季の花々の帯結び展示



羽織れる着物コーナーで日本文化に親しむ英国スタッフ



羽織れる着物コーナー説明パネル

会員一覧

運営委員会構成団体(9団体)

- 川崎商工会議所
- 公益財団法人川崎市国際交流協会
- 公益財団法人川崎市スポーツ協会
- 一般社団法人川崎市観光協会
- 一般社団法人川崎市商店街連合会
- 川崎市障害者スポーツ協会
- 川崎市全町内会連合会
- 川崎市総合文化団体連絡会
- 社会福祉法人川崎市社会福祉協議会

企業・団体(32団体) ※50音順・加入時の名称

- イオンリテール株式会社イオンスタイル新百合ヶ丘
- 神奈川県中小企業家同友会川崎支部
- 神奈川臨海鉄道株式会社
- 株式会社 I&I
- 株式会社川崎北地域M&Aサポートセンター
- 株式会社 きらぼし銀行
- 株式会社近畿日本ツーリスト首都圏
- 株式会社クレハ環境
- 株式会社総商
- 株式会社 NENGO
- 株式会社明治スポーツプラザ
- 株式会社モスフードサービス
- 株式会社横浜銀行
- 川崎信用金庫
- 川崎浴場組合連合会
- 公益財団法人川崎市生涯学習財団
- 公益社団法人川崎市医師会
- シティーリフトかわさき株式会社
- 税理士法人いさやま会計
- セレサ川崎農業協同組合
- ぜんち共済株式会社
- 東急株式会社
- 東急スポーツシステム株式会社
- 名古屋園
- 日本電気株式会社神奈川支社
- 日本たばこ産業株式会社川崎第1支店
- 日本伝統工芸水引研究会
- ハクビ京都きもの学院渋谷校
- HONEY TRAP
- 富士通株式会社
- みぞのくち新都市株式会社
- ラゾーナ川崎プラザ

保育園・学校給食における応援

英国代表チームの事前キャンプ受入れの周知と応援機運の醸成のため、市内の公立保育園、市立小・中・特別支援学校で英国の家庭料理を献立にした給食を提供した。この「英国チーム応援献立」給食の提供に、英国関係者と子どもたちの交流事業も行われた。

市内の公立保育園で英国の伝統料理が登場

2018(平成30)年7月12日、英国の伝統的な料理を献立に取り入れた給食として、初めて川崎市内の公立保育園に登場した。12日と26日には「フィッシュ&チップス(白身魚のフライとポテトフライ)」、13日と27日には、おやつとしてスコーンが提供された。



フィッシュ&チップスの給食



英国代表チーム応援献立給食をみんなで楽しく「いただきます」(下小田中保育園)

また、これに合わせて7月12日、大島保育園に、市内在住の英国人モデルのブーヴロウ・ジェット・アクセル氏をゲストとして招き交流イベントを実施した。園児たちによる手描きの国旗が飾られた部屋で、園児たちは世界地図を使って英国の位置を確認したり、英国にちなんだクイズなどをしたりして楽しんだ。また、英国の遊び「ロンドン橋」を紹介したところ、初めて遊ぶという子どもたち

も多く、大いに盛り上がった。園児たちから、「川崎踊りいーじゃんダンス」が披露されると、アクセル氏も一緒に踊りに加わり、楽しいひと時を過ごした。

「英国チーム応援献立」登場 英国交流イベントも 続々開催

2019(令和元)年度は、市内の公立保育園だけでなく、市立小・中・特別



英国クイズ、英国はどこかわかるかな? (大島保育園)



「川崎踊りいーじゃんダンス」で交流(大島保育園)



和太鼓とロックソーランを披露した(下小田中保育園)



好きな英国の絵本は「くまのプー」と答えるアップルビー氏(下小田中保育園)

支援学校も新たに対象に加わり、「英国チーム応援献立」と称した給食が提供された。

同年10月12日、市内公立保育園(32園)で「英国チーム応援献立」が提供されるとともに、下小田中保育園では、英国人ゲストと園児たちとの交流イベントが開催された。イベントに招待されたのは、市内の公共施設で英会話を教えている英国人のジョン・アップルビー氏。英国ゆかりのキャラクターで、川崎市英国事前キャンプPR大使でもある「きかんしゃトーマスとなかまたち」を当てるクイズなどで、園児たちに楽しく英国を紹介。園児たちからは迫力ある和太鼓演奏とロックソーランが披露された。当日の給食献立は、ひき肉を包んだ「シェパーズパイ」とロールパン、ブロッコリーの塩ゆで、野菜スープ。おやつには、オートミールを使った焼き菓子「フラップジャックス」も提供された。

ブリティッシュ・スクール・イン東京と小・中学生との交流

同年7月には、市立東橋中学校に、ブリティッシュ・スクール・イン東京(BST)の児童生徒や教職員を招き、子母口小学校や東橋中学校の児童生徒等との交流事業を行った。

多目的ホールで行われた歓迎セレ

モニーでは、生徒の流暢な英語による司会進行で、ブリティッシュ・スクール・イン東京の児童生徒たちを迎えた。東橋中学校吹奏楽部による英国国歌「ゴッド・セーブ・ザ・クイーン」と「川崎市歌」の演奏は、セレモニーを大いに盛り上げた。

続いて交流プログラムでは、日本文化に親しんでもらうため、東橋中学校の生徒たちがスライドと英語を駆使して「折り鶴」の折り方を丁寧に説明した。自分好みの色・模様の折り紙を手に取り、真剣に取り組むBSTの児童生徒や教職員と、サポートする生徒たちの中には、身振り手振りを加えながらの微笑ましい交流



折り鶴で作られた英国旗をプレゼント(東橋中学校)

が生まれた。最後には、たくさんの折り鶴で作られた英国国旗「ユニオン・ジャック」が、BSTのみなさんにプレゼントされた。

野菜がたっぷり入ったスープ「スコッチブロス」と、ひき肉とマッシュポテトで作った「シェパーズパイ」を



「母国の味に近い、とてもおいしい!」と喜ぶBSTの児童・生徒との給食風景(東橋中学校)

英国との
交流事業
①スポーツや文化での
英国との交流

歓迎セレモニーでは、英国の音楽でおもてなし(東橋中学校)



給食の配膳風景(東橋中学校)

口にし、お互いの学校の話などで会話がはずむなど、最後はすっかり打ち解けた様子だった。

駐日英国大使館から
ゲストをお迎えして
交流イベント

同年10月31日には、さくら小学校で、駐日英国大使館オリンピック・パラリンピック参事官のグレッグ・マ

ルハーン氏をゲストに招き、同校の4年生児童との交流事業が実施された。

マルハーン氏が、英国に関するクイズを出題するというかたちで、英国発祥のスポーツ(サッカー、ラグビー、ホッケー)や、英国の首都ロンドンではこれまでに3回(1908年、1948年、2012年)夏季オリンピック競技大会が行われていることなどを

紹介。この日は、週末に「ラグビーワールドカップ2019」の決勝戦を控えていたこともあり、「英国には、いくつラグビーチームがあるでしょうか」という質問に対して、児童たちは少し悩みながらも、見事4つのチーム(イングランド、ウェールズ、アイルランド、スコットランド)を言い当て、マルハーン氏を驚かせた。

この日のために子どもたちが練習を重ねた歌と踊りが披露された後、会場は給食の準備に入った。当日の給食は、さくら小学校創立10周年記念の特別献立(自校献立)で、児童たちに大人気のみそラーメンと唐揚げ、湘南ゴールドのゼリー、小さな赤しそおにぎり。「英国の小学校には給食がないので、みんなサンドイッチなどの軽食を持って学校へ行きます」とマルハーン氏が話すと、児童たちは少し驚いた様子を見せた。

定番となった
「英国チーム応援献立」

2020(令和2)年度に続き、2021(令和3)年度においても、英国チーム応援献立による給食を継続的に提供した。コロナ禍により英国関係者や英国選手との直接的な交流事業は実施できなかったが、多くの子どもたちが、給食を通して英国の食文化に触れることができた。



お待ちかねの給食にテンションが上がる(さくら小学校)



英国の形を当てるクイズで、多くの児童が正解(さくら小学校)



練習を重ねたソーラン節を披露(さくら小学校)

東京2020大会時の英国代表チームの事前キャンプ受入れでは、新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、当初計画された直接交流はかなわなかった。しかしながら、この間、選手やスタッフと触れ合い、英国文化を学ぶための機会を設け、また、事前キャンプ期間においては間接的な交流を行うなど、さまざまな取組を行ってきた。

市立高校の
陸上部メンバーとの
交流事業を開催

2019(令和元)年5月8日、IAAF世界リレー2019 横浜大会(11日、12日、横浜国際総合競技場)に出場する英国代表チームと市立高等学校の陸上部生徒との交流事業を開催した。英国代表リレーチームは、2017年世界陸上での金メダリスト(男子)、リオ五輪での銅メダリスト(女子)など、そうそうたるメンバーを擁しており、世界トップレベルの選手と



選手とともに、ウォームアップに励む

コーチに直接会える機会を得た市立橋高等学校、市立川崎総合科学高等学校、市立高津高等学校の陸上部の生徒たち59名はスタンドから食い入るように選手たちの練習風景を見つめていた。

スキルクリニックでは、コーチのスティーブン・マクガイア氏が高校

生たちに、選手たちが日々こなす練習メニューを直接指導した。英国選手たちも高校生たちの列に混じり、グループ別のバトンパスリレーやシャトルラン形式のリレーに共に挑戦し、勝利したチームでは選手と高校生たちが「ハイファイブ」で喜ぶ合う場面もあった。また、選手への



東京2020オリンピック競技大会で銅メダルを獲得することになるホリー・ブラッドショー選手(棒高跳び)との記念撮影



選手へさまざまな質問を投げかける生徒たち



シャトルラン形式のリレーを終えて記念撮影

質問コーナーでは、「早く走れるようになるためにはどうすればいいか教えてください」という高校生からの質問に対して、アニカ・オヌオラ選手は「よく練習して、よく寝て、よく食べて、決して諦めないこと」と回答した。彼女は、リオ五輪の4×400リレーで銅メダルを獲得した走者の一人である。高校生たちは英国代表チームから贈られたピンバッジを手に、「(週末にある)大会で自己ベストを出したい」と目を輝かせていた。



はるひ野中学校3年生のビデオレターでは、各グループが英語で日本文化を紹介

市立下作延小学校児童がクリケットに挑戦

英国オリンピック・パラリンピック代表チームの事前キャンプ受入れを契機に、英国発祥のスポーツであるクリケットを通じて英国について学ぶため、市立下作延小学校においては、2020(令和3)年3月23日、総合的学習の時間に英国文化体験学習「世界きらり発見～オリンピックでつながろう～」を実施した。

クリケットは英国が発祥とされるスポーツで、英国、オーストラリア、インド、南アフリカ、西インド諸島などの英連邦諸国を中心に高い人気を誇り、世界の競技人口はサッカーに次ぐ第2位の3億人を超えるといわれている。

川崎市立下作延小学校3年生の児童(3クラス88名)が、講師として来校した(一社)日本クリケット協会か



宮前平中学校と平間中学校陸上部から「GOGB!」



英国代表チームからお礼のビデオレターが届いた

ら、英国の文化に関する講義を受け、実際にクリケットのルールを学び、投げ方・打ち方の体験、簡単なゲームも行った。

市内学校等とビデオレターによる交流

等々力陸上競技場に英国代表チー

ムがトレーニングにやってくることにあわせて、市内の小・中・高校生等からオリンピック・パラリンピアンに向けたビデオメッセージが送られた。残念ながら、競技場で直接の交流はできなかったが、選手たちからお礼のビデオメッセージがたくさん届いた。

▶参加した学校等

市立小杉小学校6年生	川崎市の紹介(英語)、選手たちへの質問(日本語)
市立川崎高等学校1年生	川崎市・日本文化の紹介(英語)
市立平間中学校・宮前平中学校陸上部	競技に関する質問(日本語)
市立はるひ野中学校3年生	川崎市・日本文化の紹介(英語)
川崎市サッカー協会	競技に対する質問(日本語)



クリケットのルールを、実際に道具に触りながら学ぶ



校庭でクリケットをゲーム形式で楽しむ児童たち

英国との交流事業 ②

ブリティッシュ・カウンシルとの連携による取組

2012年のロンドンパラリンピックは、大会を契機として障害者に対する英国社会全体の意識が大きく変わり、史上最も成功したパラリンピックであると言われている。また、オリンピックはスポーツのみならず文化の祭典でもあることから、英国のホストタウンである本市は、かわさきパラムーブメントの一環として文化芸術分野におけるインクルーシブな社会につなげる取組を2017(平成29)年度から英国の公的文化機関であるブリティッシュ・カウンシルとの連携により推進してきた。主な取組を紹介する。

マンチェスター・カメラータと音楽ワークショップ

高齢者のQOL(生活の質)向上に取り組む地域包括ケアシステムの試みとして、「音楽」の可能性を探るとともに、関係者の意識を高め今後の連携を促すことを目的に、英国の室内オーケストラ「マンチェスター・カメラータ」の音楽家と彼らからトレ



マンチェスター・カメラータによるワークショップ

ニングを受けた日本の音楽家による90分のワークショップ「高齢者と一緒に音楽を創る」を2017(平成29)年度に特別養護老人ホーム柿生アルナ園で実施した。

ワークショップは、言葉ではなく音楽を通してコミュニケーションを取ることで、参加者(高齢者)の自由な自己表現を促す手法を採用。音楽

づくりの主導権は参加者(高齢者)に委ねられ、音楽家が音を通して対話しながら、その場にいる全員が一つとなって即興で音楽を演奏するのを手助けする役割を担うことで、美しい音楽が即興で創られていった。さらに、参加者同士の様子から、音楽を通じた参加者同士のコミュニケーションも生まれていることが見受けられた。

ストップギャップ・ダンスカンパニーによるワークショップ

障害のあるなしを超えて舞台の創造に取り組んでいる英国の「ストップギャップ・ダンスカンパニー」の来日ツアーにあわせ、2018(平成30)年度に市内のダンスユニット「ダンスラボラトリー」のメンバー約30名を対象にワークショップを実施した。ストップギャップのメンバー、ナデン氏のファシリテーションのもと双方のメンバーが活発に交流し、障害の有無



ストップギャップ・ダンスカンパニーによるワークショップ

や年齢・性別、ダンス経験などに関わらず、個々のクリエイティビティあふれる身体表現を披露しあった。

ドレイク・ミュージックによる音楽づくりワークショップと楽曲制作、発表

「誰もが文化芸術に親しんでいるまち」の実現に向けて、あらゆる人が音楽に親しみ、創造性を発揮できる社会の実現を目的に、英国のアート団体「ドレイク・ミュージック」と連携し、日本の音楽家による障害のある方を対象とした音楽づくりを行ってきた。

取組は、初年度2017(平成29)年のトークセッション及びフォーラムを皮切りに、翌年度から障害のある方が創造性を発揮することを手助けすることができる日本人音楽家のファシリテーターを育成するトレーニングや、テクノロジーの活用によって障害のある方が自ら楽器等で音楽にアクセスできるようにするためのワークショップなどを継続的に行ってきた。2019(令和元)年度からは、ドレイク・ミュージックのメンバーや上記トレーニングを受けた市内の特別支援学校で障害のある生徒を対象とした音楽づくりワークショップを開催してきた。

そして、2021(令和3)年のフェスタサマーミュージアムでは、このワークショップにより生み出された音楽を基にドレイク・ミュージックのメンバーが楽譜に落とし込んで誕生した「かわさき組曲」の世界初演を東京交響楽団の演奏により果たした。今後、2024(令和6)年の市制100周年に向けて、テクノロジーの活用なども視野に入れ市内特別支援学校の生徒、日本人音楽家、ドレイク・ミュージックのメンバーとともに新たな楽曲づくりに取り組んでいく。



日本人音楽家によるワークショップ

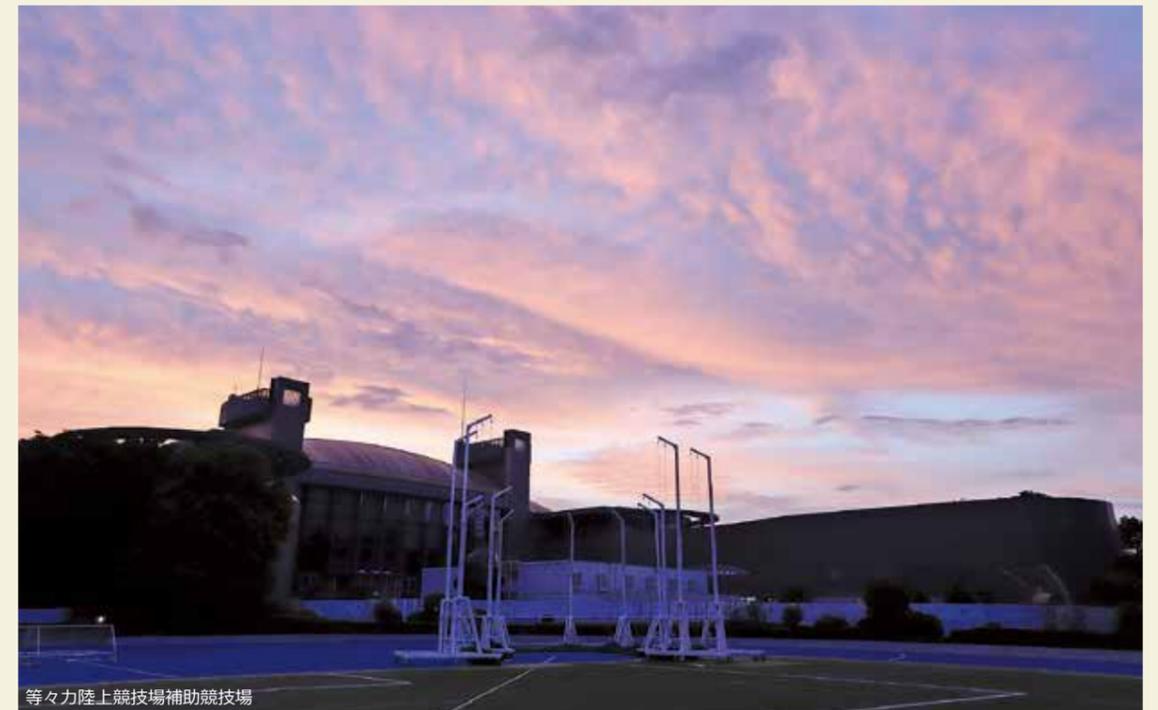


フェスタサマーミュージアムのプログラム表紙

資料編

英国代表チーム 川崎キャンプ受入れにかかる 各種アーカイブの紹介

All archives of the British national team's preparation camps in Kawasaki



等々力陸上競技場補助競技場

英国代表チーム事前キャンプ受入れに向け川崎市がこれまで実施してきたさまざまな取組や選手団受入れの実際の様子、実績を記録として残すため、オリンピック・パラリンピック推進室では映像や記録集など、複数の媒体で記録を取りまとめた。本記録誌を発行するにあたり、すでに公開している資料をアーカイブとして一括して紹介する。

We (the Olympic and Paralympic Games Promotion Office) have compiled a record of archives consisting of several forms of media, including video and record books. We did so in order to keep a record of the various initiatives Kawasaki City implemented in relation to taking on the role of hosting the British national team's preparation camps, as well as the actual outcomes of hosting the team. In publishing this report, all material already available to the public is listed here as an archive.

映像で振り返る事前キャンプ



アーカイブ映像のワンシーン ラグビー女子チームとの記念撮影



ラグビー男子チームの公開練習でのスタンド越しの記念撮影



ボランティアのおもてなしに思わずうっとりするラグビー女子チーム

総勢300人近い選手団が訪れた英国代表チームの事前キャンプであるが、新型コロナウイルス感染症対策のため、市職員やボランティア（サポーター）など限られた人たちしか川崎市等々力陸上競技場での選手団のトレーニングを目にすることができなかった。そこで川崎市では、全期間を通じて受入れの様子を映像や写真で記録することとし、制作したアーカイブ映像を川崎市の公式YouTubeチャンネルなどで広く発信した。

事前キャンプ密着取材をドキュメンタリー映像へ

約2か月の英国代表チームの事前キャンプ受入れ期間中、映像・写真を撮影するクルーが現場にほぼ常駐することとなった。川崎市が委託する撮影クルーたちは、代表選手の真剣なトレーニング風景やサポーターのおもてなしに笑顔で応える姿、ボランティアやスタッフが丸となって炎天下で用具器具のセットアップや撤収を行う様子をカメラに収めた。時には、ハンディタイプのカメラを英国スタッフに渡し、川崎市関係者が立ち入ることのできない英国エリアの風景や川崎市へのメッセージを収めてもらった。

こうした密着取材を経て記録した映像や写真を使い、事前キャンプ受入れの舞台裏をドキュメンタリー風に取りまとめた約25分のアーカイブ映像が完成した。多くの方々の直接的、間接的な協力があってこそ実現したコロナ禍での事前キャンプ受入れの様子が伝わるだけでなく、選手やスタッフが等々力陸上競技場の施



選手の真剣な練習風景を眺める子どもたち



自分へのメッセージに対して、ボランティアに微笑みかけるパラ陸上競技選手

設環境やサポーターによるおもてなしの数々に、おもわず「Amazing!」「So cute!」と叫ぶ様子が映し出されている。映像の最後には、数々の大会を経験してきた英国スタッフから「今までさまざまな事前キャンプ地に行ったが、ここ川崎がベストだ」と称賛のメッセージが添えられている。

「かわさきパラムーブメント」の新たな幕開けへつなぐ短編も公開

東京2020大会を契機としてこれまで川崎市が推進してきた「かわさきパラムーブメント」。英国代表チームの事前キャンプ、特に英国パラリンピック選手団受入れを通じて得た経験を、さらなるムーブメントへと広げ、「共生社会に向けた新たな幕開け」というメッセージを込めた、1分53秒の短編映像も制作し、配信した。

そのほか、長編となった本編を2分強にまとめたダイジェスト編と、ダイジェスト版をさらに30秒に収めたプロモーション映像をそれぞれ制作した。30秒版は、市内公共施設のデジタルサイネージでも放映され、広く市民の目に触れた。



共生社会に向けた新たな幕開けにつなぐ、かわさきパラムーブメント編



2か月の事前キャンプ映像を約2分でまとめるダイジェスト編



英国代表チーム川崎キャンプ ドキュメンタリー映像



かわさきパラムーブメント～東京2020大会を終えて その先の未来へ～



2分14秒でわかる川崎市 東京2020大会 英国代表チーム事前キャンプ



30秒でわかる川崎市 東京2020大会 英国代表チーム事前キャンプ

英国応援デザインロゴ制作と GOGB 2020ウェブサイト

川崎市は、横浜市、慶應義塾大学と合同で英国代表チームの事前キャンプを受け入れるにあたり、三者合同で英国のホストとしての取組を進めるため、共通の応援メッセージを掲げたロゴ「GOGB 2020」(ゴー・ジー・ビー・ニー・ゼロ・ニー・ゼロ)と、英国代表チーム応援ウェブサイト「GOGB 2020ウェブサイト」を制作し、応援の機運を事前キャンプ終了までの間、継続して盛り上げた。ここでは、それぞれの取組の概要を紹介する。

横浜市・慶應義塾大学と ロゴ・合同デザインを制作

川崎市、横浜市、慶應義塾大学の三者は、BOA及びBPAとともに、一体感や連帯感を形成し、団結を象徴化するブランディングシステムを構築するため、三者合同で英国を応援する「GOGB 2020」ロゴと、BOA及びBPAを加えた五者のロゴマークを配した合同デザインを制作した。合同デザインの制作は、BOA及びBPAの協力のもと、東京大会組織委員会、国際オリンピック委員会(IOC)及び国際パラリンピック委員会(IPC)の承認を得て行われ、三者が主催するイベントや市民を対象とした各種イベントでのブランディング、ポスター、記念グッズ作成等に使用し、機運醸成や英国事前キャンプの周知に広く活用した。この「GOGB 2020」ロゴは三者がそれぞれ主催する場合のみ使用でき、また、五者のロゴマーク入りのデザインの場合、川崎市でもオリンピック・パラリンピック推進室が主催した場合に限って使用できるなど、五者連携によるガイドライン整備の下、ブランドの



「GOGB 2020」ロゴ



五者のロゴマーク入り合同デザイン

運用を徹底し、他都市にはないユニークな取組となった。

なお、「GOGB 2020」のロゴマークは、ホストである三者を商標権者として商標登録済である(商標登録第6214019号・登録日2020(令和2)年1月7日)。

応援に役立つ情報満載の ウェブサイト

また、三者は、チーム「Friends of Great Britain」(フレンズ・オブ・グレートブリテン[英国])を結成し、「GO GB(ゴー・ジー・ビー:がんばれ、英国)」を合言葉に、市民、学生とともに英国代表チームを応援し、さまざまな活動を行うため、英国のホストタウンとして三者共同で管理・運営する「GOGB 2020ウェブサイト」を2018

(平成30)年8月に公開し、英国代表チームの応援に役立つ情報を日本語・英語の両言語で発信した。三者の担当者と委託事業者は、制作・運営にあたり、それぞれの組織理念に沿った運用ができるようコンセプト設計から掲載情報や作業方法の統一まで、大変多くの議論を重ねるなど苦労を要した。その甲斐もあって、約3年半に渡り、三者固有の情報を積極的に発信するほか、三者にゆかりのある市民や学生たちが英国を応援する風景をまとめた「GOGB応援ムービー」を共同制作しウェブサイトのトップページを盛り上げるなど、統一的で洗練されたデザインの中に創造性がぎっしり詰まったページとなった。

①「ニュース&イベント」

川崎市・横浜市・慶應義塾大学が実施する活動やイベント情報を掲載

②「GOGBについて」

「GOGB応援ムービー」やGOGBのあゆみを掲載

③「事前キャンプを知る」

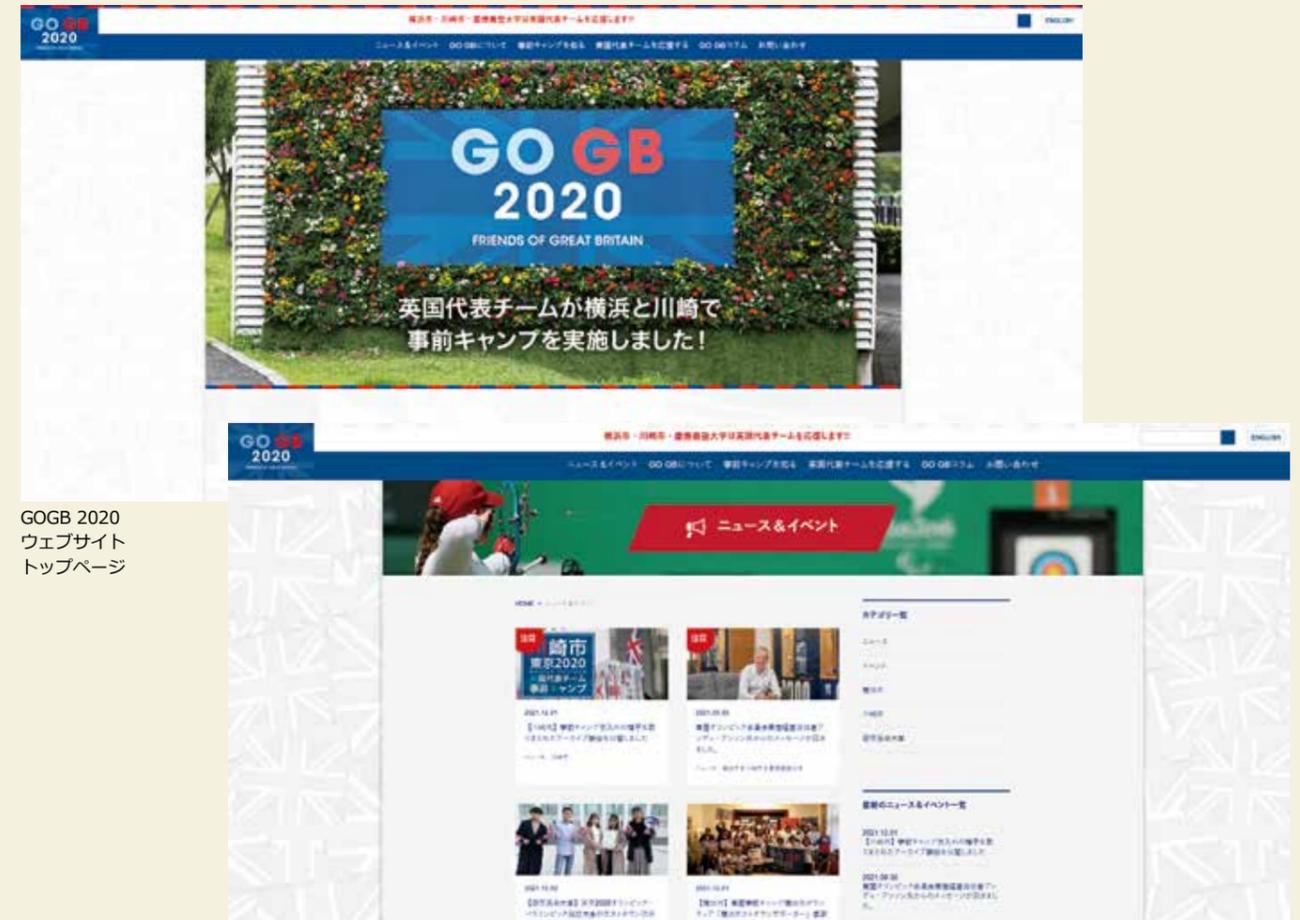
ホストである川崎市・横浜市・慶應義塾大学の魅力、英国事前キャンプが行われた施設の紹介を掲載

④「英国代表チームを応援する」

リオ2016大会までの英国代表チームの活躍、そして、東京2020大会での成績が数字でわかるインフォグラフィックス、英国選手の情報を掲載

⑤「GOGBコラム」

「事前キャンプを知ろう」「英国代表チームを応援しよう」などのテーマごとに、さまざまな特集記事を掲載。「事前キャンプの現場」を伝える「川崎市等々力陸上競技場大公開!」、日本のトップアスリートや競

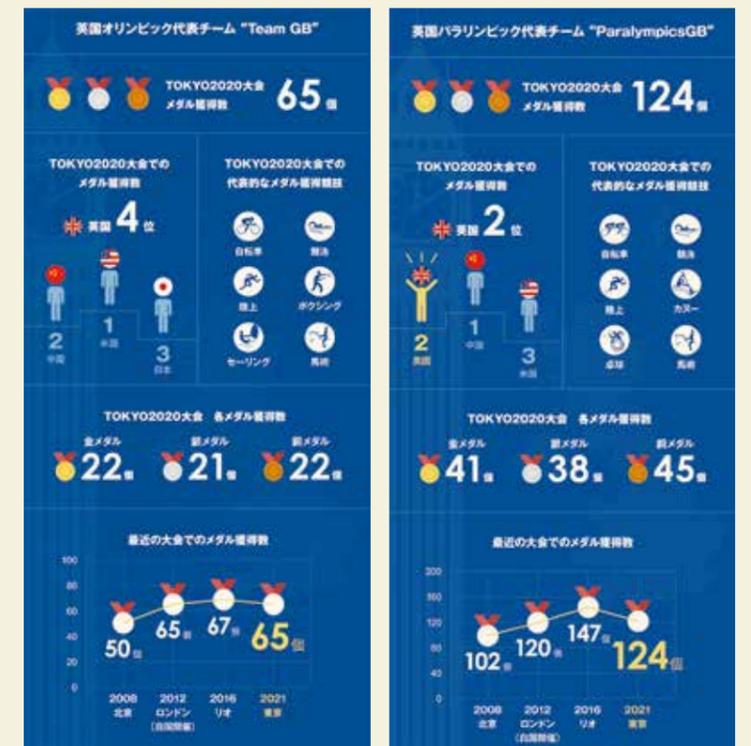
GOGB 2020ウェブサイト
トップページ

GOGB 2020ウェブサイト ニュース&イベントページ

技指導者による注目情報をまとめた「東京2020オリンピック・パラリンピックに向けて知っておきたい!英国代表チームのここがスゴイ!」などを配信

ウェブサイト情報を アーカイブ化、将来へ記録

東京2020大会の終了とともに、本ウェブサイトは役目を終えることから、多くの情報を発信し英国応援を盛り上げたウェブサイトのレガシーとして、掲載情報を66ページに編集し、電子データとしてアーカイブ化した。また、活用当時の姿のままにウェブサイトを後世に伝えるため、国立国会図書館「インターネット資料収集保存事業(WARP)」により、収集したウェブサイト上のデータをオリジナルのまま保存した。



数字でわかる英国代表チーム
※2022(令和4)年2月、英国オリンピック代表チーム「Team GB」のメダル獲得数は、陸上競技男子4×100mリレーチームがドーピングにより失格となったため、全体で64個、銀メダルは20個となった。



東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会 英国代表チーム川崎キャンプ 選手名鑑

※本選手名鑑は、川崎市でトレーニングを行った英国代表選手を広く知っていただけるよう、川崎市が2021(令和3)年12月に作成し本市ウェブサイト上で公開したものを再編集したものです。選手たちの名前や顔写真はもちろん、東京2020大会や過去のオリンピック・パラリンピックでの成績を分かりやすく掲載しています。なお、掲載内容は作成時点のものとなります。

目次

英国代表チーム川崎キャンプ実施概要	95
東京2020オリンピック競技大会	
Team GB 英国オリンピック代表チーム	96
Athletics 陸上競技	97
Football Women サッカー 女子	101
Rugby Men ラグビー 男子	103
Rugby Women ラグビー 女子	104
東京2020パラリンピック競技大会	
ParalympicsGB 英国パラリンピック代表チーム	105
Athletics 陸上競技	106



英国代表チーム川崎キャンプ 実施概要

川崎市は英国のホストタウンとして、横浜市、慶應義塾大学とともに、英国オリンピック・パラリンピック代表チームの事前キャンプを受入れました。

事前キャンプ 受入概要 ※人数には選手、スタッフ含む

英国オリンピック代表チーム Team GB	
受入期間：2021(令和3)年7月2日～8月5日	
受入人数：約200人	
・サッカー(女子)：7月 9日～16日	約40人
・ラグビー(男子)：7月16日～21日	約40人
(女子)：7月19日～24日	
・陸上競技：7月16日～8月1日	約120人
英国パラリンピック代表チーム ParalympicsGB	
受入期間：2021(令和3)年8月11日～9月2日	
受入人数：約90人	
・陸上競技：8月14日～30日	約90人



©Team GB | Sam Mellish

事前キャンプ受入施設

等々力陸上競技場・補助競技場

川崎市中原区の等々力緑地内にある等々力陸上競技場は、Jリーグ川崎フロンターレのホームグラウンドでもあり、試合の日にはスタジアム内がチームカラーの青一色に染まります。そのほか、中高校生のサッカー公式戦や陸上などの競技場として利用され、試合のない日には一般の方々が利用しています。



等々力陸上競技場



補助競技場

東京2020大会及び川崎市での事前キャンプスケジュール

7月		8月		9月	
7/2-8/5 英国オリンピック代表チーム 事前キャンプ		8/11-9/2 英国パラリンピック代表チーム 事前キャンプ			
		● 8/14 パラリンピック 聖火フェスティバル 川崎市実施日			
				8/24-9/5 東京2020 パラリンピック競技大会	
				7/23-8/8 東京2020 オリンピック競技大会	

Team GB 英国オリンピック代表チーム

Chef de Mission for the Tokyo 2020 Olympics Games

東京2020大会 選手団長

Mark England OBE

マーク・イングランド



British Olympic Association
Head of Preparation Camp

英国オリンピック委員会
事前キャンプ責任者



Nicola Phillips

ニコラ・フィリップス

British Olympic Association
Preparation Camp Operations Manager

英国オリンピック委員会
事前キャンプ オペレーション・マネージャー



Kay Finch

ケイ・フィンチ

東京2020大会での
Team GBの成績 ※1



等々力陸上競技場で
事前キャンプを行った競技 ※2

- 陸上競技 ● サッカー(女子)
- ラグビー(男子・女子)



(メダル獲得は全て陸上競技)

※1・2 名鑑作成時(2021(令和3)年12月)での成績。2022(令和4)年2月に、陸上競技男子4×100mリレー銀メダル剥奪が確定した。

凡例: ①生年月日 ②東京2020大会成績 ③前回出場大会成績

Athletics

陸上競技

	800m Daniel Rowden ダニエル・ラウデン ①1997/9/9 ②準決勝敗退
	800m Elliot Giles エリオット・ジャイルズ ①1994/5/26 ②準決勝敗退 ③リオ2016大会 予選敗退
	800m Oliver Dustin オリバー・ダスティン ①2000/11/29 ②予選敗退
	1500m Jake Heyward ジェイク・ヘイワード ①1999/4/26 ②9位
	1500m Jake Wightman ジェイク・ワイトマン ①1994/7/11 ②10位
	1500m Josh Kerr ジョシュ・カー ①1997/10/8 ②銅メダル
	5000m Andrew Butchart アンドリュー・ブッチャート ①1991/10/14 ②11位 ③リオ2016大会 6位入賞
	5000m/10000m Marc Scott マーク・スコット ①1993/12/21 ②5000m: 予選敗退 10000m: 14位
	10000m Sam Atkin サム・アトキン ①1993/3/14 ②決勝 途中棄権
	3000m障害 Phil Norman フィル・ノーマン ①1989/10/20 ②予選敗退
	3000m障害 Zak Seddon ザック・セドン ①1994/6/28 ②予選敗退
	110mハードル Andrew Pozzi アンドリュー・ポッジ ①1992/9/15 ②7位入賞 ③リオ2016大会 準決勝敗退
	110mハードル David King デイビッド・キング ①1994/6/13 ②準決勝敗退
	走高跳 Tom Gale トム・ゲイル ①1998/12/18 ②11位
	棒高跳 Harry Coppell ハリー・コッペル ①1996/7/11 ②7位入賞

凡例:①生年月日 ②東京2020大会成績 ③前回出場大会成績

三段跳

Benjamin Williams ベンジャミン・ウィリアムズ

①1992/1/25
②予選敗退

砲丸投

Scott Lincoln スコット・リンカーン

①1993/5/7
②予選敗退

円盤投

Lawrence Okoye ローレンス・オコイェ

①1991/10/6
②予選失格
③ロンドン2012大会
12位

ハンマー投

Nick Miller ニック・ミラー

①1993/5/1
②6位入賞
③リオ2016大会
予選敗退

ハンマー投

Taylor Campbell テイラー・キャンベル

①1996/6/30
②予選敗退

20km競歩

Callum Wilkinson カラム・ウィルキンソン

①1997/3/14
②10位

20km競歩

Tom Bosworth トム・ボスワース

①1990/1/17
②25位
③リオ2016大会
6位入賞

4×400mリレー / 混合4×400mリレー

Cameron Chalmers キャメロン・チャルマーズ

①1997/2/6
②4×400mリレー:予選敗退
混合4×400mリレー:6位入賞

4×400mリレー / 混合4×400mリレー

Joseph Brier ジョセフ・ブライアー

①1999/3/16
②4×400mリレー:予選敗退
混合4×400mリレー:出場無し

4×400mリレー / 混合4×400mリレー

Lee Thompson リー・トンプソン

①1997/3/5
②4×400mリレー:予選敗退
混合4×400mリレー:6位入賞(予選のみ)

4×400mリレー

Michael Ohioze マイケル・オハイオジ

①1995/2/6
②予選敗退

4×400mリレー / 混合4×400mリレー

Niclas Baker ニクラス・ベイカー

①1994/9/9
②4×400mリレー:出場無し
混合4×400mリレー:6位入賞

100m/4×100mリレー

Chijindu Ujah シジンドゥ・ウジャ

①1994/3/5
②100m:準決勝敗退
4×100mリレー:銀メダル
③リオ2016大会
100m:準決勝敗退/4×100mリレー:5位入賞

100m/4×100mリレー

Reece Prescod リース・プレスコッド

①1996/2/29
②100m:準決勝失格
4×100mリレー:出場無し

100m/4×100mリレー

Zharnel Hughes ザーネル・ヒューズ

①1995/7/13
②100m:決勝失格
4×100mリレー:銀メダル

200m/4×100mリレー

Adam Gemili アダム・ジェミリ

①1993/10/6
②200m:予選敗退
4×100mリレー:出場無し
③リオ2016大会
200m:4位入賞/4×100mリレー:5位入賞

凡例:①生年月日 ②東京2020大会成績 ③前回出場大会成績

200m/4×100mリレー

Nethaneel Mitchell-Blake ネサニール・ミッチェルブレイク

①1994/4/2
②200m:予選敗退
4×100mリレー:銀メダル
③リオ2016大会
200m:準決勝敗退

4×100mリレー

Jona Efoloko ジョナ・エフォロコ

①1999/9/23
②出場無し

4×100mリレー

Richard Kilty リチャード・キルティ

①1989/9/2
②銀メダル
③リオ2016大会
5位入賞

100m/4×100mリレー

Asha Philip アシャ・フィリップ

①1990/10/25
②100m:準決勝敗退
4×100mリレー:銅メダル
③リオ2016大会
100m:準決勝敗退/4×100mリレー:銅メダル

100m/4×100mリレー

Daryll Neita ダリル・ネイタ

①1996/8/29
②100m:8位入賞
4×100mリレー:銅メダル
③リオ2016大会
100m:予選敗退/4×100mリレー:銅メダル

100m/200m/4×100mリレー

Dina Asher-Smith ディナ・アッシュャースミス

①1995/12/4
②100m:準決勝敗退
200m:欠場/4×100mリレー:銅メダル
③リオ2016大会
200m:5位入賞/4×100mリレー:銅メダル

200m/4×100mリレー

Beth Dobbin ベス・ドビン

①1994/6/7
②200m:準決勝敗退
4×100mリレー:出場無し

400m/4×400mリレー

Ama Pipi アマ・ピピ

①1995/11/26
②400m:準決勝敗退
4×400mリレー:5位入賞

400m/4×400mリレー

Jodie Williams ジョディー・ウィリアムズ

①1993/9/28
②400m:6位入賞
4×400mリレー:5位入賞
③リオ2016大会
200m:準決勝敗退

400m/4×400mリレー / 混合4×400mリレー

Nicole Yeargin ニコール・イヤギン

①1997/8/11
②400m:予選 失格
4×400mリレー:5位入賞
混合4×400mリレー:6位入賞

800m

Alexandra Bell アレクサンドラ・ベル

①1992/11/4
②7位入賞

800m

Jemma Reekie ジェマ・リーキー

①1998/3/6
②4位入賞

800m

Keely Hodgkinson キーリー・ホジキンソン

①2002/3/3
②銀メダル

1500m

Katie Snowden ケイティ・スノーデン

①1994/3/9
②準決勝敗退

1500m

Laura Muir ローラ・ミュア

①1993/5/9
②銀メダル
③リオ2016大会
7位入賞

1500m

Revee Walcott-Nolan レバー・ウォルコットノラン

①1995/3/6
②予選敗退